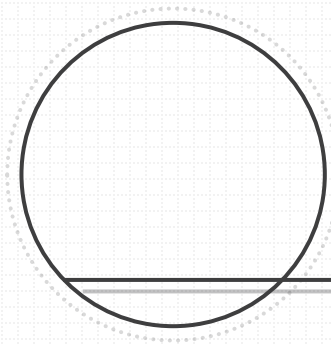




新たな事後検証体制の確立

～湘南地区メディカルコントロール協議会～



湘南地区メディカルコントロール協議会
事後検証作業部会
平塚市消防本部 宇佐美 雅史



SHONAN-AREA
MEDICAL CONTROL COUNCIL

湘南地区メディカルコントロール協議会とは・・・



詳細については・・・

構成消防本部（13本部）

- ・藤沢市消防局
- ・平塚市消防本部
- ・小田原市消防本部
- ・茅ヶ崎市消防本部
- ・秦野市消防本部
- ・厚木市消防本部
- ・伊勢原市消防本部
- ・海老名市消防本部
- ・大磯町消防本部
- ・二宮町消防本部
- ・箱根町消防本部
- ・湯河原町消防本部
- ・愛川町消防本部

神奈川県内各地域のメディカルコントロール協議会

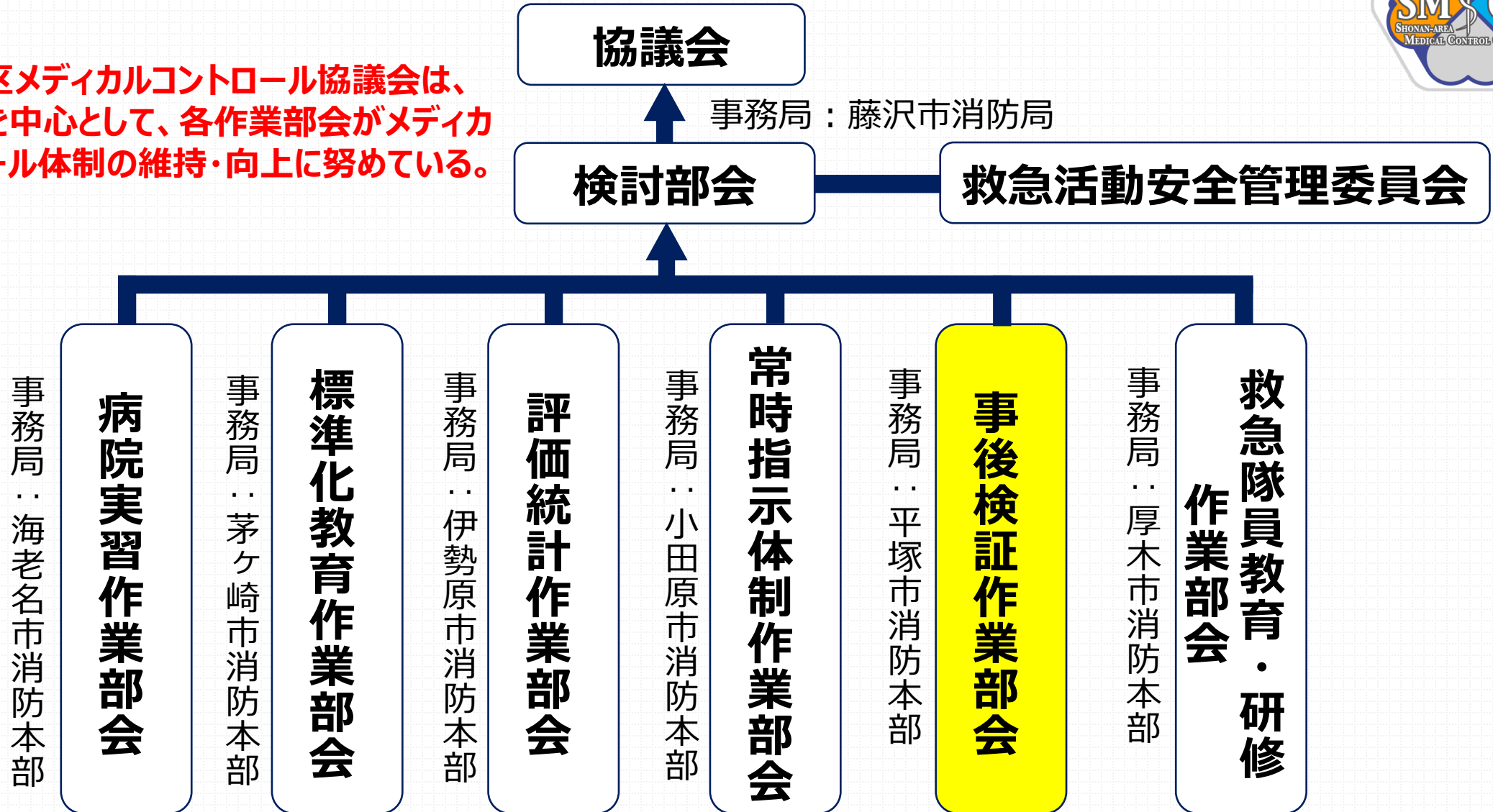


**県内を5つの区域に分け、それぞれの地域特性に適した
地区メディカルコントロール協議会を策定**

湘南地区メディカルコントロール協議会の構成



➤ 湘南地区メディカルコントロール協議会は、
検討部会を中心として、各作業部会がメディカル
コントロール体制の維持・向上に努めている。



事後検証作業部会について

【事後検証作業部会の概要】

作業部会員：医師部会員 16 人、消防部会員 13 人

開催日：毎月 1 回（第 4 木曜日） 17 時から
※約 2 時間程度

開催方法：Web会議もしくは対面会議

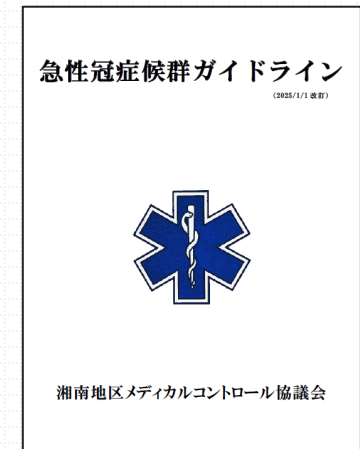
主な役割：

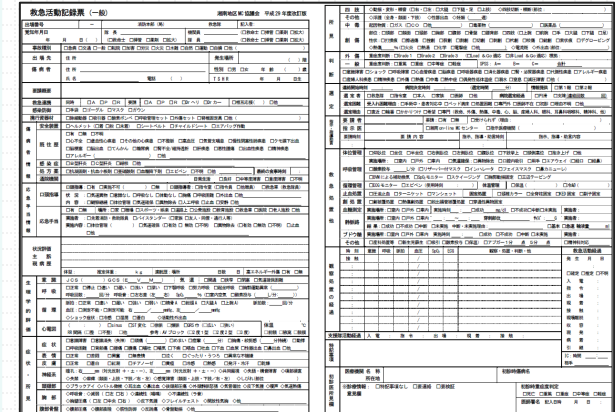
- ・医師による検証（二次検証）の実施
- ・メディカルコントロールに関する問題点の整理及び検討
- ・救急活動記録・検証票原案の作成
- ・各種プロトコルの作成
- ・その他、事後検証に関して検討部会より委託された作業

年間検証数：1,876 件（令和 6 年度）



～主なガイドライン一覧（抜粋）～



[illegible]

これまでの事後検証について



事後検証については、20年以上にわたり、消防機関と医療機関双方で検証作業が行われ、救急活動・口頭指導の質の向上が図られてきた。

一方で・・・

事後検証の方法などについては、一部形骸化している部分もあり、コロナ禍等を経て、新たな事後検証のあり方を検討する必要性が高まっていた。

Point!

令和6年度の事後検証作業部会にて、以下の2点に取り組んだ。

- ① 事後検証の指針の改訂**
- ② 各月の事後検証作業部会における新たなWeb会議方法の導入**

事後検証の変革①～事後検証の指針改訂～



事後検証の指針とは・・・

平成 15 年に策定された事後検証におけるガイドラインであり、これに基づき検証を行うことで救急活動の質の維持・向上を図ってきた。



この事後検証の指針は必要に応じて改訂作業を行ってきた経緯があり、直近では令和 4 年に文言等の一部改訂が行われていた（第 15 版）。



一方で、**指導救命士の充実などを背景に今後の事後検証における抜本的な改訂が必要**との声上がり、昨年度、1 年間をかけて事後検証作業部会を中心に改訂作業が行われた。

事後検証の指針

第 16 版

2025 年度



湘南地区メディカルコントロール協議会



SHONAN-AREA
MEDICAL CONTROL COUNCIL

事後検証の変革①～事後検証の指針改訂～



事後検証の指針改訂の主なポイント

① 一次検証と二次検証の役割の明確化

→各消防本部の指導救命士による一次検証が充実していることから、消防本部が抱える課題（出場部隊の選別、活動内容、検証票への記載不備など）については、原則、指導救命士を中心とした一次検証での指導とした。一方で、二次検証は医師による医学的な観点からの検証と明確に区分けし、一次検証での内容と重ねての指導は不要とした。

② 検証範囲の拡充

→検証範囲については、明確に事後検証の指針に記載されていたが、救急活動の質が上がり、年々検証すべき事項が少なくなっていた。また、本来、検証すべき症例が埋もれてしまっているのではないかと意見もあったことから、検証範囲を精査するとともに救急隊が活動に苦慮した症例や重症症例を幅広く二次検証へ提出できるよう、検証範囲の拡充を行った。

③ 事後検証票の改訂

→事後検証の指針の改訂に併せ、事後検証票の改訂を行った。また、一次検証をより充実化させるため、一次検証を各フェーズ（口頭指導、出場から現場到着までなど）に分け、それぞれのフェーズにスポットを当てた検証・記載が行えるように書式を変更した。

事後検証の変革②～新たな手法の導入～



コロナ前・・・

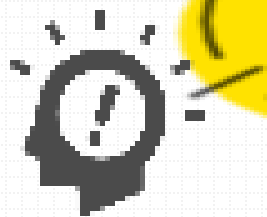
毎月行われる事後検証作業部会はすべて対面会議で行われていた。その会議の中では、担当の検証医師と消防職員が直接意見を交わす時間が設けられ、フィードバック等を行うことができた。

コロナ後・・・

毎月の事後検証作業部会はW e b 会議による開催が主流となり、対面での開催は年 1 回程度となった。また、Web会議では各検証医師から全体を総括したコメントのみ発言があり、個々の事案のフィードバックは書面により行われた。

Point!

- 部会員から、「**対面開催は消防職員と医師が直接意見を交わし、救急活動記録からは分からないリアルな現場の声を伝えることができる**」という意見があり、対面開催数の増加を望む声が多くあった。

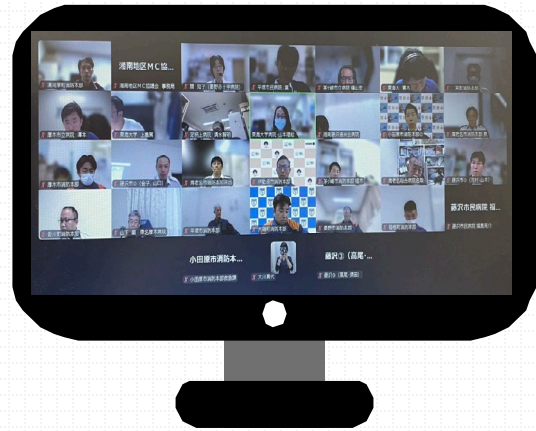


対面開催時のような検証医師と消防職員が個別でフィードバックする形をW e b 会議の中でも実施できれば、より効果的な検証ができるのではないかと・・・

事後検証の変革②～新たな手法の導入～



湘南地区メディカルコントロール協議会が活用するWeb会議ツールのZOOMには、**オンライン会議で参加者を少人数のグループに分け、それぞれ別の部屋でディスカッションを行うブレイクアウトルームという機能**があり、それを活用することで、対面開催に近い形を再現できるのではないかと考えた。



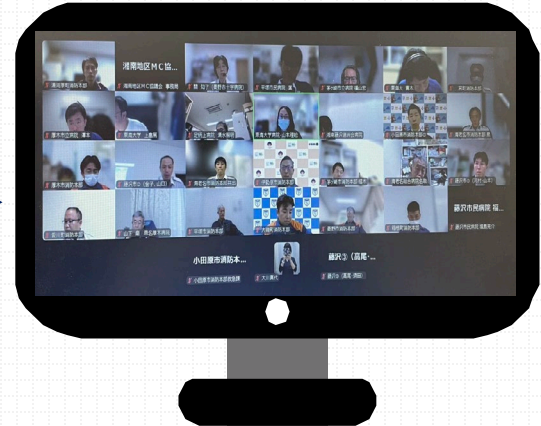
**事後検証作業部会
全体会議**



Web上に小部屋を作成・振り分け

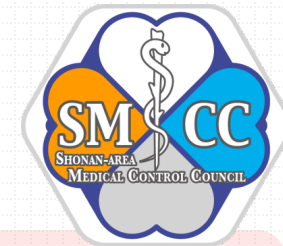
- Group 1** ●●医師 ▲▲市消防本部
- Group 2** ▲▲医師、××町消防本部
- Group 3** ××医師、●●市消防本部
- Group 4** ...
- Group 5** ...
- Group 6** ...

**ブレイクアウトルームにて
検証医師と消防職員による検証作業**



全体講評

得られた効果と今後の課題



★事後検証の指針改訂と新たな手法導入による効果★

- ▶ 検証が必要な症例に対して、効率的に時間を割けるようになり、活動記録からは分からないリアルな現場の声を検証に活かすことで、検証の質が向上した。
- ▶ 指導救命士による検証を充実化したことにより、一次検証の質が格段に向上するとともに、救急隊員等に対して指導救命士が指導・教育するという体制が確立されつつある。
- ▶ 指導救命士による検証を医師が検証し、指導救命士の指導方法を評価することで、指導救命士の質の維持・向上につながっている。

★今後の課題★

- ▶ 事後検証の結果をどのように現場での活動に活かしていくかが今後の課題であり、その場限りでのフィードバックに留めず、各消防本部で何ができるかを検討し、必要な施策等に反映していくことが求められる。
- ▶ 今後は特定行為の実施率や社会復帰率などの客観的なデータを収集・解析し、湘南地区メディカルコントロール協議会として目に見える形での結果を提示していくことが必要となる。

ご清聴ありがとうございました。